

Title	渡辺秀樹先生を称えて
Author(s)	大森, 文子
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2022, 2021, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88418
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

渡辺秀樹先生を称えて

大森文子

私たちの共同研究プロジェクトは、2001年に発足した大阪大学大学院言語文化研究科の科内研究会「言語文化レトリック研究会」における共同研究を母体としています。その成果をまとめて毎年刊行してきた共同研究プロジェクト報告書は、本報告書で21冊目になります。この研究会の立ち上げの時から長年にわたり共同研究を牽引し、私たちをお導きくださいました渡辺秀樹先生を称え、本報告書『英語のレトリック・日本語のレトリック:言語文化共同研究プロジェクト2021』は、渡辺秀樹先生退職記念特集号としてお送りいたします。

渡辺秀樹先生は、1980年に千葉大学を御卒業の後、1985年に東京大学大学院修士課程を修了、同年東京大学大学院博士課程に進学されるも、わずか1年後、1986年に大阪大学言語文化部助手に採用され、1988年に同講師に、1991年に同助教授に昇任されました。2003年に千葉大学大学院で博士の学位を取得され、2008年に大阪大学大学院言語文化研究科教授に昇任され、2022年3月31日に退職を迎えられます。

渡辺先生の研究の御業績を振り返りますと、第一に記すべきは、フィロロジストとしての歩みを貫き、御研究を大きく発展させてこられたことです。1985年、修士論文完成、修士課程修了と同時に東京大学英語学研究会発行の学術誌に発表された古英詩 *Beowulf* に関する論文が渡辺先生の処女論文であります。この研究を継続的に発展させた論文が2000年に権威のある学術誌 *Neuphilologische Mitteilungen* に掲載され、この論文は多くの *Beowulf* 研究や校訂本に引用され、学界の定説となっています。他にも *Beowulf* および古英語文献全般を対象とした古英語の意味研究を数々の論文として、また講演、シンポジウム等で発表され、その御研究は世界の研究者に引用されています。修士論文から始まった古英詩の研究が、世界が認める大きな研究として結実する。先生の歩みは若い学徒にとってはこの上ない励ましであり、鑑であり、理想であります。

渡辺先生の御研究の射程は、古英詩にとどまるものではありません。聖書翻訳の歴史、ヨーロッパ古典文学、Shakespeare から近現代英米詩に至るまで高い見識を持たれ、日本文学にも精通しておられます。言語文化レトリック研究会ではこれまで11回にわたって発表されましたが、そのテーマは、*Beowulf* の文体論はもとより、Milton の認知詩学、戦争詩人 Owen の詩の意味分析、英字紙やニュース雑誌の文体分析、OED の文献学的分析、映画 *My Fair Lady* のレトリック、芭蕉俳句英訳のレトリック、芭蕉連句の西洋人の理解、漱石俳句のレトリックなど、多岐にわたります。私たち共同研究者は御発表を拝聴し、プロジェクト報告書に掲載された御論文を拝読するたびに、古今東西の文学作品をこよなく愛され、その文体や意味を分析される先生の御研究の広さと深さと鋭さに対し、常に畏敬の思いを新たにしてきました。私自身は、科研費の助成を受けた研究で何度も渡辺先生と共同研究をさせていただき、そのうちの一つは、言語文化レトリック研究会を長年支えてくださったジェリー・ヨコタ名誉教授が本研究科在籍時に研究代表者を務められた大型の科研費助成研究(2009-2012)で、研究分担者として渡辺先生、アンドリュー村上スミス先生とご一緒しましたが、それらの共同研究でも、実に多くを学ばせていただきました。

渡辺先生は、和歌や俳句、連句にいたっては、学術的分析だけではなく、実作までなさいます。俳号をお持ちで、吟行に赴いては四季折々の景を句にしたためられ、御友人と連句を巻かれます。昨年10月には、先生の御歌が読売歌壇に首席入選作として掲載されました。

渡辺先生に会うために大阪大学に来訪されたある他大学の教授が、先生の研究室に一步入った途端、「なんと cozy な空間だろう」と驚かれたと伺ったことがあります。その居心地の良さの要因は、膨大な数の学術書や文学全集が整然と並べられ、緑の樹影がそよぐ大きな窓から爽やかな風と小鳥の音が流れ込むことだけではありますまい。アメリカ大統領の演説から三島由紀夫に至るまで、多種多様な研究テーマを掲げる本研究科の院生の誰に対しても、その学識を縦横無尽に駆使して助言を施され、入室する相手の興味に寄り添って朗らかに学問談義、文学談義に花を咲かせる、その先生の佇まいの美しさが cozy な空間を生み出すのです。それは、薫陶を受けてきた私たち研究会仲間や指導院生誰もが知るところであります。私たちは渡辺研究室の楽しい雰囲気に関わりながらも、学問を志す者としていつも目を見開かされ、姿勢を正されるのです。

私たちは、大阪大学御着任以来36年の長きにわたる渡辺秀樹先生の本研究科、本共同研究プロジェクトへの多大なる御貢献に敬意を表し、深い感謝をこめて本特集号を捧げます。